

令和4年度 教育事業(体験活動普及啓発事業)

本とホント探索隊(1年目)

1 事業概要

「With Book」をコンセプトに、外国にルーツのある親子等を対象に、柑橘実験ショーと絵本作りワークショップを通して、親子で絵本にふれる楽しさを体感できる場と多文化共生の社会づくりの場を提供した。



2 事業の目的(ねらい)

柑橘実験ショーと絵本作りワークショップを通して、親子で絵本にふれる楽しさを体感できる場を提供し、多文化共生の社会づくりに貢献する。

3 企画のポイント

- 柑橘王国の名産である「マーマレード作り」を通じて、自然科学絵本への関心を促進する。
- 実験ショーと動画制作のために写真家の元専門職(理科教員)に運営補助を依頼する。
- 様々な国の方が参加しやすいように「やさしい日本語」認定講師にスタッフを依頼する。
- ノンバーバルコミュニケーションとしてファシリテーション・グラフィックを用いる。
- 絵本を日本語や多言語でのバーバルコミュニケーションとして活用する。

4 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 後 援 大洲市教育委員会・愛媛県国際交流協会

6 期 日 令和4年12月10日(土) 10:00~15:00(受付開始:9:30~)

7 場 所 国立大洲青少年交流の家 エコスタディールーム・シアタールーム

8 参加人数 21名(未就学児 2名 小学生 4名 在住外国人 7名 保護者 8名)
【内訳】ナイジェリア・カナダ・コスタリカ・インドネシア・ミャンマー
フィリピン・イギリス・日本 計 8カ国
[募集人数 20名・10組(先着順)]
・外国にルーツのある親子・在住外国人 5組
・国際交流に関心のある親子 5組

9 講 師 (一社) JAPAN マーマレード協会 理事長 國分 美由紀 氏
絵本専門士 (平成28年認定 愛媛県第一号) 菅 弥和乃 氏
ファシリテーター 岩下 紗矢香 氏
(一社) グローバル教育人材交流協会 仲村 智映 氏 (日本語教師)
色いろいろ研究室 代表 高石 勝 氏 (写真家)

10 日 程

- 10:00~10:05 開会式
- 10:05~12:15 <柑橘実験ショー>
「マーマレードは、科学だ!」
- 13:00~14:50 <絵本作りワークショップ>
「本とホント探索隊~南予のみかんが世界農業遺産に!??~」
- 14:50~15:00 閉会式・解散



11 活動内容

<柑橘実験ショー> 「マーマレードは、科学だ！」講師：國分 美由紀 氏・高石 勝 氏

講師の國分氏の指導により柑橘王国・愛媛ならではの実験的マーマレード作りと元専門職の高石氏の「科学実験ショー」によりマーマレード作りでのゲル化を学んだ。また、共同作業をきっかけに自然に参加者同士の交流が生まれた。さらに、ワークシートを用いて多国籍・多言語でもお互いが通じ合う時間を共有することができた。



<絵本作りワークショップ> 「本とホント探索隊～南予のみかんが世界農業遺産に！？～」

講師：菅 弥和乃 氏・岩下 紗矢香 氏

参加者は、絵本専門士の菅氏による蜜柑に関する絵本の読み聞かせや本を手本に蜜柑の皮を使ったアート作製、蜜柑の皮の成分を用いた蜜柑の花火を体験した。また、世界農業遺産や南予の蜜柑の不思議を探る農家さんコーナーと蜜柑や農業に関する自然科学絵本、外国語の絵本コーナーを巡った。最後に、ワークシートでのミニ絵本作りとその絵本の発表を行った。



<逐次通訳> (一社) グローバル教育人材交流協会 仲村 智映 氏 (日本語教師)

<運営補助> 国際交流サークル ナチュラル★キッチン 菊池 典子 氏

12 参加者の声 参加者の事後アンケートの結果

*満足：95% *やや満足：5% *やや不満：0% *不満：0%

- 言葉が通じなくても手を動かしながら交流ができてよかった。
- 蜜柑の皮で動物を作るのが一番楽しかったです。
- 本とワークショップがリンクしていてとても面白かったです。
- Today was very fun, it was good to interact with different people around Ehime and foreigners live in the area. Thank you for organizing.
- I like “みかんのめいさんち” book! I will definitely this kind of event in the future. I like to learn lots of things.

13 事業の成果

実験的マーマレード作りは、煮詰める時間に「It's Magic!」と参加者からマジック(手品)発表も飛び出し、人間関係にも化学変化が起きた。絵本やファシリテーション・グラフィックを用いることにより、多言語の場も自然に交流が生まれた。仲村氏による逐次通訳と「やさしい日本語」を介して、多国籍・多言語でも親戚の集まりのような空間が生まれ、参加者同士が連絡先を交換し合う姿も見られた。参加者が絵本を抱きしめている姿や窓辺で一生懸命に発表の練習している姿に心を打たれた。絵本による日本語習得と国際交流に可能性を感じた。

14 事業の課題

農繁期や在留留学生等の研修と日程が重なり、広報に苦戦したため、対象者に「届く」広報計画を考えたい。ナショナルセンターとしてSDGsにある「誰一人取り残さない (leave no one behind)」社会の実現のために、多様性理解と多文化共生の社会作りに貢献できる事業を今後も継続的に取り組む必要性を感じた。

(本とホント探索隊担当者)